2020 年 5 月 15 日

2020 年 12 月期 第 1 四半期決算 カンファレンスコール 説明要旨

皆さまこんばんは。日本ペイントホールディングス CFO の若月です。

本日は遅い時間にご参集いただき、誠にありがとうございます。これより、2020 年度第 1 四半期決算の概要をご説明いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

目次

1. 2020年第1四半期決算 ハイライト ・・・ P.11

2. 2020年第1四半期決算 実績（地域別） ・・・ P.14

3. 2020年通期 見通し ・・・ P.23

4. 参考データ

-（1）調整項目の内訳 ・・・ P.29

-（2）主要な経営指標 ・・・ P.34

本資料の開示データについて

- 短信ベース・実質ベースの2通りで記載
- 実質ベースとは、継続的な事業の収益力の前年からの変化を示すため、M&Aによる追加要因や一時的な要因により発生した損益を調整して算出
- 本資料における定性情報は、基本的に実質ベースで記載
- 実質ベースにおける主な調整項目は下記の通り。詳細はP.29以降に記載
（為替影響、補助金・保険金他（補助金収入・保険金収入・固定資産売却益）、M&A関連費用、無形固定資産償却、減損損失、新規連結）

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP 2

まずは P2 下段をご覧ください。

2 月から開示方法を変更しており、引き続き短信ベースと実質ベースの 2 通りで記載しています。

大きな違いは DuluxGroup 社と Betek Boya 社の買収上乗せ分、あとは為替となります。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

本日のサマリー

- 2020年1Q連結業績の前年同期比は、
  短信ベース ／ 売上収益：+11%、営業利益：-24%と増収減益
  実質ベース ／ 売上収益：-14%、営業利益：-42%と減収減益
- NIPSEA中国事業は特に2月から3月にかけて新型コロナウイルス影響(「コロナ影響」)が大きく、減収減益。3月にはほぼ全工場が稼働再開し、足元は徐々に回復傾向
- 自動車塗料は、昨年度からのグローバルな市況低迷に加え、今期はコロナ影響に伴う更なる生産台数の減少等も相まって、各地域で減収減益
- 昨年買収したDuluxGroup社・Betek Boya社は、着実に業績貢献(短信ベース)。Betek社は前年同期比大幅伸長(参考)なるも、4月以降トルコでのコロナ影響大きく、2月発表の見通しは取り下げ。Dulux社については様相異なるものの、現時点で大きな変更なし
- 2020年度連結業績予想については、現時点でコロナ影響が地域や業種により異なり、終息時期や最終需要の回復などを合理的に見積もることは困難な状況だが、現時点で一定の想定を置いて算出し、売上収益7,200億円、営業利益630億円と見込む。今後、世界の新型コロナウイルスの状況により予想を変更する可能性あり。なお、配当については未定

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP 3

第 1 四半期の実績ですが、短信ベースで増収減益、実質ベースでは減収減益です。
やはり中国の影響は大きく、自動車も影響を受けています。一方で、DuluxGroup 社、Betek Boya 社ともに着実に貢献しています。

2 月 13 日の 2019 年度第 4 四半期決算では連結業績予想を未定としましたが、DuluxGroup 社と Betek Boya 社については当時まだ新型コロナウィルスの影響がなく、また買収後の通年ガイダンスを出す意味もあり、DuluxGroup 社は売上収益 1,430 億円、営業利益 170 億円、Betek Boya 社は売上収益 340 億円、営業利益 31 億円、いずれも PPA（Purchase Price Allocation：企業買収時に取得した資産および引き受けた負債に取得価額を配分する処理）償却前で開示していました。
DuluxGroup 社は当初計画を維持しますが、Betek Boya 社は感染拡大の影響からいったん取り下げます。ただし、DuluxGroup 社についても事業環境は当時の想定から変化している点にご理解ください。

その上で、2020 年度連結業績予想につきましては、引き続き現時点で合理的な算出は難しいと認識しています。ただし、今回は一定の想定を置いた、ある意味ベースケースとして売上収益 7,200 億円、営業利益 630 億円を開示しました。前年比短信ベースでは増収減益、実質ベースの内訳は非開示です。
なお、配当については現時点では未定といたしました。

ここから、まずは新型コロナウィルス関連の現在の状況についてご説明いたします。

こちらは当社の世界における状況の概観です。
生産数量も極めて大まかな概算値であり、多くの方はご案内の通り、その時点での在庫の積み方や今後の見通し次第で生産量は変化しますので、この数字そのものに意味があるわけではありません。
あくまでスナップショットとして、世界でどういうことが起きているかを示すために、今回だけ特別に作成しました。

一言でいえば、塗料は奥深く、国や地域、業種によりかなりバラバラな様相であることを理解いただければと思います。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

新型コロナウイルス関連（２） 当社方針・NIPSEA中国状況

重要視する3つ方針

①従業員とその家族をコロナウイルス感染から守ること
②世界中の事業を守るために資金繰りを確保すること
③事業継続計画（BCP）を固めること

NIPSEA中国の状況

①生産体制
- NIPSEA49工場は3月8日から全て稼働再開
- 工場生産数量（全体・前年比）1～2月~-30%、3月~-20%（1Q~-25%）、4月~+15%

②サプライチェーン
- 原材料調達に問題なし、ロジスティックスも改善
- 3月からの原油価格の低下による原材料調達価格への影響は2～4ヵ月後（3Q以降）
- 1Qは調達価格の低減努力により、RMC比率※は前年比1.3ポイント改善

③販売動向
- 汎用は2Qから前年並への回復を見込む（ProjectはDIYより早い回復を想定）
- ただし、3月の繁忙期は逃しており、通期業績には影響あり
- 工業用は全体的に需要が弱く、回復には時間を要する見込み
- 高い資金流動性をもとに、顧客を積極的にサポートし、回復時の需要に即応する

※ 原材料費用比率

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP 5

その上で、当社では新型コロナウィルス対策として、早くから３つの点を重視する旨を社内外に示してきました。
１点目について、国内での当社感染者はゼロ、海外でも極めて少数の感染にとどまっており、従業員の感染を原因とした工場停止は起こっていません。

続いて NIPSEA 中国の状況はご覧の通りです。工場は全て再開、数量もあくまでご参考で入れていますが、春節のあった 1-2 月はもともと生産数量も少ないことから、あくまでトレンドとして回復が見て取れる、という点のみご理解いただければと思います。

サプライチェーンマネジメントは問題ありませんが、原油価格下落の収益への影響の顕現はもう少し先になると見込んでいます。

また販売動向ですが、やはり工業用より汎用の回復が早く、汎用の中でも Project が DIY よりも早期に戻ってくると予想しています。それでも全体的には V 字回復というほどではなく、後ほどの業績予想において、市況の回復は相応に慎重に想定しています。
一方、NIPSEA の強みとして、実際に回復するときにはグループの資金力も活かして需要に即応する体制および規模、いわゆる Resilience power は十分備えていると考えています。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

新型コロナウイルス関連（３） 主要地域の市況・業況

主要地域の市況・業況

アジア（NIPSEA 中国以外）	マレーシアおよびシンガポールGrともに、3月後半からの都市封鎖等により1Qおよび2Q業績へ影響。下期から前年並みへの回復を想定
日本	汎　用：1Qは消費増税特需の反動減に加え、3月からコロナ影響が顕在化。終息・復調は下期を想定 工業用：1Qは景気低迷に加え、海外でのコロナ影響による部材の輸入、製品の輸出に滞りが生じた製造業種に生産調整が発生 2Q以降は更にコロナ影響により製造業の生産調整が見込まれる
オセアニア	1Qは山火事に加え、ニュージーランド（売上構成比約10％）の都市封鎖があったものの、豪州は汎用需要の高まりで、2Qは前年比プラス成長、下期は平常化を想定
米州（DE）	3月からコロナ影響が顕在化。必要不可欠事業として143店舗営業中であるものの、2Q以降は感染規制等により減速の見込み
欧州（Betek）	1Qは前年比+41％（参考値）と好調。4月からの都市封鎖の影響もあり、2Q以降は当初想定ほどの成長ではないが、通期では前年比プラス成長を想定
自動車事業	日本：1Qは景気低迷やコロナ影響で生産台数が減少（前年比7％減）し、2Qまで落ち込みが継続する想定。下期以降緩やかな回復を見込む NIPSEA中国：1Qは都市封鎖の影響で生産台数が大幅減少（前年比45％減）、2Qからの早期回復を想定 米州：1Qはコロナ影響により生産台数が減少（前年比12％減）、2Qおよび下期にかけても大きな回復は見込めず 欧州：1Qは生産台数が減少し、2Qも落ち込むが、下期の回復を想定

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP　6

こちらは新型コロナウィルスの影響を受けての各地域の市況、業況についてまとめています。

アジアは、一言でいえば２月までは好調でしたが、３月から感染拡大やロックダウンの影響が出ています。

国内汎用では同じく３月から新型コロナウィルスの影響が見え始め、４月では一部大手ゼネコンが工事を中止するところも出ており予断を許しませんが、下期には復調すると見込んでいます。

オセアニアでは、当初森林火災や悪天候の影響があったものの、３月には逆に外出規制に伴う高い住宅リノベーション需要が発生し、ご参考ですが、前年対比でも増収を確保しています。

米国汎用 Dunn-Edwards 社では、1-2 月が値上げの効果や好天にも恵まれ非常に好調だったものの、３月には新型コロナウィルスの影響が顕在化しました。当初一部店舗の閉鎖も命じられました。現在は全て営業中ですが需要は落ちています。

Betek Boya 社は、２月に大規模な販促イベントの開催効果もあり第１四半期は大変好調でしたが、４月に入り感染が爆発的に拡大したため、ロジスティクスをはじめ相応に影響を受けており、非常に予想が困難な状況です。４月速報値でも売上は良かったのですが、実需というよりは３月からの積み残しや、封鎖に備えた買いだめによるもの、というのが実態です。

最後、自動車事業はグローバルに非常に厳しい、という状況です。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

新型コロナウイルス関連（３） 主要地域の業況（4月単月・ご参考）

主要地域の市況・業況（4月単月・ご参考）

	生産数量（前年比）	売上収益（前年比）
NIPSEA中国	汎用　：～+20%	汎用　：～+10%
アジア（NIPSEA中国以外）	マレーシア：～-95% その他：～-35%	マレーシア：～-85% その他：～-50%
日本	汎用　：～0% 工業用：～-25%	汎用　：～-15% 工業用：～-15%
オセアニア	豪州：～+15%	～+15%
米州（DE）	～-50%	～-20%
欧州（Betek）	～-40%	～+10%
自動車事業	n/a	日本：～-40% NIPSEA中国：～-25% 欧米：～-95%

※ 上記は現地通貨ベースの速報概算値であり、正確な財務数値ではありません。

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP　7

こちらも４月単月の速報値で、数値そのものは概算値であり、全体感を見ていただくことを目的としています。逆にミスリーディングになるといけないのですが、先ほどの Betek Boya 社での説明のように、売上はプラスでも生産は大幅マイナスであったり、また中国でも結果的に生産も売上も強いようですが、あくまで生産と販売にはタイムラグがありますし、この数字そのものから何かを結論を導き出すのは難しいとお考えください。

なお、後ほどの業績予想値は、まさにこうした状況を踏まえて作成したものであり、やはりタイムラグはある、という点もご理解願います。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

新型コロナウイルス関連（４） 手元流動性

手元流動性の確保等（現預金等1,428億円※＋下記2,300億円）

①新型コロナウイルスの長期化の可能性を踏まえ、万全の流動性を確保

・コミットメントライン契約（4月10日契約締結）

借入先	株式会社三井住友銀行、株式会社三菱UFJ銀行
借入極度額	1,800億円（契約期間1年）

・借り入れ①（4月15日実行）

借入先	株式会社三井住友銀行、株式会社三菱UFJ銀行
借入金総額	200億円（借入期間1年）

・借り入れ②（4月28日実行）

借入先	株式会社日本政策投資銀行
借入金総額	300億円（借入期間2年）

②買収時ブリッジローンの長期化を実現（3月16日～23日実行）

借入先	株式会社三井住友銀行、株式会社三菱UFJ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社日本政策投資銀行、株式会社みずほ銀行
借入金総額	3,200億円（借入平均期間6.8年）

※ 3月末時点

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

8

こちらは当社の３つの方針の２番目に対応します。

②のブリッジローンの長期化はもともと検討していましたが、銀行窓口の拡大など良いタイミングでの長期化に加えて、銀行さんのご協力で非常に低コストで最悪の事態にも十分備えられ、また回復期における資金確保も問題なく、しっかりとビジネス機会が捉えられる体制となりました。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

新型コロナウイルス関連（５） ステイホームキャンペーン

当社では、STAY HOME & ENJOY PAINTINGと題し、ご自宅で過ごす時間が増えているお客様に、おうち時間を巣ごもりでなく「巣飾り」として彩るアイディアや対象製品を、新しく開設した特設サイトで紹介しています

※ 詳しくは、特設サイト（https://www.nippehome-online.jp/stayhome/）をご覧ください。

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP 9

こうした状況下でもやはり新しいビジネス機会はあるものです。

こちらは投資家の皆さまへも宣伝となりますが、巣ごもりではなく「巣飾り」への取り組みとして、大変好評を博しています。

皆さまにも、ぜひお試しいただければと思います。

最後になります。

今回の感染症に対して、当社の技術をもとにした社会課題の解決ができないか、色々と検討しています。
新型コロナウィルスを対象としたものではありませんが、実はすでに当社は抗ウィルス塗料製品をそろえています。こちらは光触媒を利用した抗ウィルス機能を有した製品であり、PIAJ（光触媒工業会）という認証機関から製品認証を得ています。
また産学連携もより具体的検討を進めており、社会課題のお役に立てるようにグループの総力を結集しています。

P12 以降は今のご説明をもとにした結果数字でありますので、少し割愛し、後ほどご質問をお受けします。

見通しの説明の前に、P15-16 だけご説明します。

こちらは 2 月の 2019 年度第 4 四半期決算から試行しているヒートマップです。

この表も少し慣れないと分かりにくいのですが、色はあくまでマーケット動向です。一方、矢印は当社がシェアを上げたか、インラインか、シェアを落としたか、を示しています。
したがって、中国の DIY、Project は市場が大きく下落する中で、当社の売上自体は減少していますが、当社のシェアはむしろ上げている、と推定しています。

第 1 四半期営業利益の増減分析です。

今年のプラス要因は、主に DuluxGroup 社と Betek Boya 社の買収効果となります。

この買収分の調整項目への計上は、今年の第 3 四半期から第 4 四半期にかけてなくなります。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

3-1. 2020年度　通期業績予想

（億円）	短信ベース			
	2019 実績	2020 予想	YoY（額）	YoY（%）
売上収益	6,920	7,200	280	4.0%
営業利益	781	630	-151	-19.3%
営業利益率	11.3%	8.8%	-	-2.5pt
税引前利益	795	600	-195	-24.5%
当期利益※	367	250	-117	-31.9%

※親会社の所有者に帰属する当期利益

<為替換算レート>

	2019年 通期	2020年 通期
円/米ドル	109.2	107.0
円/人民元	15.8	15.5
円/豪ドル	74.7	75.0

業績予想の前提：
上記連結業績予想については、現時点で新型コロナウイルスの影響が地域や業種により異なり、終息時期や最終需要の回復などを合理的に見積もることは困難な状況だが、現時点で一定の想定を置いて算出。今後、世界の新型コロナウイルスの状況により予想を変更する可能性あり。
なお2020年12月期の配当（予想）は、現段階では未定。今後の業績動向をふまえ、予想が可能となった時点で当社の配当政策にもとづき、速やかに開示する

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP　24

ここから、2020 年度の通期業績予想です。

前提は冒頭で申し上げた通り、これまでの説明でご理解されたと思いますが、地域や業種により影響が非常に異なるため、全体で一つの数字を予測するのは実際困難です。
ただし、私どもとしては、市場の皆様との対話を重視する中、何かベースケースを置いてから、今後その想定との相違などをお知らせすることが、今できるベストではないかと考えました。どうかその前提をご理解いただきたいと思います。

なお、配当について一言申し上げます。
当社は「株主価値最大化」を指向する中、まずはステークホルダーへの責務の充足、事業継続の担保を大前提としており、その確認が第一になります。
その上で、トータル・シェアホルダー・リターン（TSR）を上げるための成長投資を優先し、安定配当を意識しながら、配当を検討する、という順番になりますので、現時点での配当予想はやや時期尚早、と考えている次第です。

こちらが第 2 四半期の市況の予想です。

先ほどの通り、例えば中国における 4 月の状況は決して悪くないですが、それでも 5-6 月はまだ予断を許さない状況と認識しています。

こちらは下期の市況の予想です。

ある程度新型コロナウィルスの終息を前提としますが、全体的に景況感がＶ字回復という想定は置いていません。ただし、多くで前年並み程度に戻ると考えています。

3-4. 2020年通期 見通しの諸前提(1)

NIPSEA中国(前年比5～10%減)

・汎用(DIY):前年比5～10%減。経済活動の再開により緩やかながら市況回復。2Q以降塗替え中心に市場回復を見込む中、各種プロモーションを計画するも通年では落ち込みをカバーできず前年割れ

・汎用(PRJ):前年比0～5%減。2Q以降、不動産ディベロッパーによる早期の工事再開に伴う市況回復を想定するも、中国経済の低迷に伴い売上は前年割れの見通し。ただし、戦略的顧客との関係強化を図ることで下落幅は最小限に留める

・自動車　:前年比15～20%減。2Q以降、生産台数の回復を見込むものの直近では厳しい見通しで通年では前年割れ

アジア(NIPSEA中国以外)(前年比5～10%減)

・自動車　:前年比10～15%減。下期も生産台数の回復は鈍く、減収

・汎用　:前年比5～10%減。下期以降、広告宣伝と販促活動の強化に取り組むも、通期では減収

日本(前年比5～10%減)

・自動車　:前年比25～35%減。景気低迷とコロナによる自動車生産台数の減少により、減収

・汎用　:前年比0～10%減。下期はコロナ影響が終息し工事再開を前提として、シェア拡大に向けた施策を推進するも、減収

・工業用　:前年比5～15%減。2Q以降もコロナによる市況悪化が見込まれることにより、減収

※数値は現地通貨ベース

3-5. 2020年通期 見通しの諸前提(2)

オセアニア(ご参考:前年比5%増前後)

・コロナの影響は予断を許さないものの、汎用などBtoC事業がけん引し増収

米州(前年比15～25%減)

・自動車　:前年比30～40%減。2Q以降は生産台数が低迷し、減収

・汎用　:前年比0～10%減。2Q以降の市況悪化に伴い、経費削減や投資抑制等の対策を実施し、営業利益低下に歯止めをかける

その他

・自動車　:前年比20～30%減。2Q以降も都市封鎖に伴う生産停止の影響により減収

・汎用　(ご参考:前年比0～10%増)。1Qは好調に推移。4月以降は都市封鎖等により、弱含みに推移するものの、通期では増収

設備投資・販管費

・原材料費:原油価格の下落を一部織り込み

・販管費　:当初想定からの減収に伴い、広告宣伝費などを削減

・設備投資:市況を鑑み、一部案件については後ろ倒しを実施

※数値は現地通貨ベース

P27-28 は個別地域ごとの見通しの前提になります。

繰り返しになりますが、現時点でのベースケースとして置いており、これらを集約して、一つの数字を作り上げたものを本日お示しした 7,200 億円の売上収益にしています。

例えば、中国は第 2 四半期、下期ともに横ばいの市況であり、シェアを奪えば前年越えも可能ではないか、とも考えられます。一方、第 1 四半期の落ち込みや、シェア獲得のために場合によってはディスカウントの可能性もあります。それら諸々併せての一つのベースとお考えください。

4-(1)-3. 調整項目の内訳(第1四半期 FY2018 vs FY2019)

(億円)		2018年 1Q						2019年 1Q					
		為替影響	補助金保険金他	M&A関連費用	減損損失	新規連結影響	合計	為替影響	補助金保険金他	M&A関連費用	減損損失	新規連結影響	合計
日本	自動車用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	汎用(建築・重防食)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	工業用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ファインケミカル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	売上収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	-	23	-	-	-	23	-	20	-	-	-	20
オセアニア	汎用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	工業用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	塗料周辺事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	売上収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
米州	自動車用	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	汎用(建築)	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	3
	ファインケミカル	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
	その他※	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
	売上収益	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	4
	営業利益	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
その他	自動車用	-	-	-	-	-	-	-3	-	-	-	-	-3
	汎用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	工業用	-	-	-	-	-	-	-0	-	-	-	-	-0
	ファインケミカル	-	-	-	-	-	-	-0	-	-	-	-	-0
	その他※	-	-	-	-	-	-	-0	-	-	-	-	-0
	塗料周辺事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	売上収益	-	-	-	-	-	-	-3	-	-	-	-	-3
	営業利益	-	-	-	-	-	-	-1	-	-	-	-	-1

※その他には船舶・自動車補修事業が含まれます

4-(1)-4. 調整項目の内訳(第1四半期 FY2018 vs FY2019)

(億円)		2018年 1Q						2019年 1Q					
		為替影響	補助金保険金他	M&A関連費用	減損損失	新規連結影響	合計	為替影響	補助金保険金他	M&A関連費用	減損損失	新規連結影響	合計
アジア	自動車用	-0	-	-	-	-	-0	-4	-	-	-	-	-4
	汎用(建築・重防食)	-3	-	-	-	-	-3	-17	-	-	-	-	-17
	工業用	1	-	-	-	-	1	-2	-	-	-	-	-2
	ファインケミカル	-	-	-	-	-	-	-0	-	-	-	-	-0
	その他※	0	-	-	-	-	0	-0	-	-	-	-	-0
	売上収益	-2	-	-	-	-	-2	-23	-	-	-	-	-23
	営業利益	-	19	-	-	-	19	-4	1	-	-	-	-3

■アジア内訳

NIPSEA 中国	自動車用	-0	-	-	-	-	-0	-3	-	-	-	-	-3
	汎用(建築・重防食)	-3	-	-	-	-	-3	-19	-	-	-	-	-19
	工業用	1	-	-	-	-	1	-0	-	-	-	-	-0
	その他※	0	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	0
	売上収益	-2	-	-	-	-	-2	-23	-	-	-	-	-23
	営業利益	-	19	-	-	-	19	-4	1	-	-	-	-3
NIPSEA 中国以外	売上収益	-	-	-	-	-	-	-0	-	-	-	-	-0
	営業利益	-	-	-	-	-	-	0	-	-		-	0
連結合計	売上収益	-2	-	-	-	-	-2	-21	-	-	-	-	-21
	営業利益	-	42	-	-	-	42	-4	21	-	-	-	17

※その他には船舶・自動車補修事業が含まれます

最後にご参考にとして、2 点申し上げます。

まず、調整項目の内訳の 2018 年度と 2019 年度の比較が欲しいと投資家の皆さまから要望を受けていましたので、開示しています。
恐縮ですが、第 1 四半期は P32-33 に記載していますが、第 2 四半期および第 3 四半期は宿題とさせていただきます。

NIPPON PAINT HOLDINGS CO.,LTD.

4-(1)-2. 調整項目の内訳(第1四半期 FY2019 vs FY2020)

(億円)		2019年 1Q						2020年 1Q					
		為替影響	補助金保険金	M&A関連費用	無形償却停止	新規連結影響	合計	為替影響	補助金保険金	M&A関連費用	無形償却停止※2	新規連結影響	合計
アジア	自動車用	-0	-	-	-	-	-0	-6	-	-	-	-	-6
	汎用(建築・重防食)	-3	-	-	-	-	-3	-23	-	-	-	-	-23
	工業用	1	-	-	-	-	1	-2	-	-	-	-	-2
	ファインケミカル	-	-	-	-	-	-	-1	-	-	-	-	-1
	その他※1	0	-	-	-	-	0	-1	-	-	-	-	-1
	売上収益	-2	-	-	-	-	-2	-33	-	-	-	-	-33
	営業利益	-	1	-	-	-	1	-4	1	-	6	-	3
■アジア内訳													
NIPSEA中国	自動車用	-0	-	-	-	-	-0	-3	-	-	-	-	-3
	汎用(建築・重防食)	-3	-	-	-	-	-3	-18	-	-	-	-	-18
	工業用	1	-	-	-	-	1	-2	-	-	-	-	-2
	その他※1	0	-	-	-	-	0	-0	-	-	-	-	-0
	売上収益	-2	-	-	-	-	-2	-23	-	-	-	-	-23
	営業利益	-	1	-	-	-	1	-3	1	-	5	-	3
NIPSEA中国以外	売上収益	-	-	-	-	-	-	-10	-	-	-	-	-10
	営業利益	-	-	-	-	-	-	-1	-	-	1	-	0
連結合計	売上収益	-2	-	-	-	-	-2	-37	-	-	-	398	361
	営業利益	-	21	-	-	-	21	-4	1	-	6	45	48

※1 その他には船舶・自動車補修事業が含まれます
※2 商標権の耐用年数の見直しに伴い、短信ベースの償却費が約6億円(NIPSEA中国5億円、NIPSEA中国以外1億円)減少しています。

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP 31

また、P31 に記載していますが、会計上の見積もりの変更に伴い、NIPSEA の商標権の耐用年数を見直し、償却費が四半期で約 6 億円減少します。これは通年で寄与します。

以上になります。ありがとうございました。